

	シーズ名	内臓脂肪の疫学研究
	氏名・所属・役職	産業医学・教授・林 朝茂 (HAYASHI, Tomoshige) 産業医学・准教授・佐藤 恭子 (SATO, Kyoko) 産業医学・講師・上原 新一郎 (UEHARA, Shinichiro) 産業医学・特任助教・柴田 幹子 (SHIBATA, Mikiko)
<p><概要></p> <p>肥満は全世界的に増加傾向にあり、2 型糖尿病・高血圧・脂質異常症・メタボリック症候群などの生活習慣病の最も重要な危険因子である。これらの生活習慣病はその病因として腹部内臓脂肪とインスリン抵抗性が自明のように扱われてきた。しかし、腹部内臓脂肪の正確な測定は CT 撮影によらねばならず、CT 撮影による腹部内臓脂肪を用いた大規模疫学研究は世界でも限られている。また、日本人は、欧米人に比べ、脂肪の分布のうえでも、皮下脂肪より内臓脂肪が蓄積しやすい民族であるとの報告もあり、内臓脂肪の疫学研究は、わが国において重要である。この問題を解決するために、我々は、腹部内臓脂肪と生活習慣病に関する大規模疫学研究である The Ohtori Study を立ち上げた。このコホート研究から腹部内臓脂肪と血圧や高尿酸血症との関連のエビデンスを報告している。</p> <p>また、この分野において世界的に有名な前向きコホート研究である米国ワシントン州立大学の米国日系人糖尿病研究がある。米国在住日系人糖尿病研究は、1983 年にワシントン州立大学の Wilfred Fujimoto 教授（現名誉教授）が開始した糖尿病の分野では世界的に有名な前向きコホート研究である。この研究からは多くの学術論文が報告されて、世界の 2 型糖尿病の予防に貢献してきた。我々は、2001 年より本研究に参画し、今ではこの研究の中心的役割を担っている。今後も、Wilfred Fujimoto 教授を中心にアジアの 2 型糖尿病対策に重要な役割を担っていく。</p> <p><アピールポイント></p> <p>2 型糖尿病などの生活習慣病と腹部内臓脂肪の疫学研究に精通している。我々には、こうしたデータを扱う経験と知識とスタッフを有している。</p> <p><利用・用途・応用分野></p> <p>2 型糖尿病をはじめとする生活習慣病の予防</p> <p><関連する知的財産権></p> <p>なし</p> <p><関連するURL></p> <p>http://www.med.osaka-cu.ac.jp/departments/toshi-pmenv.shtml</p> <p><他分野に求めるニーズ></p> <p>なし</p>		
キーワード	疫学研究、内臓脂肪、2 型糖尿病、米国在住日系人、生活習慣病	